

質問者	質問方式	質問概要
野村 日本共産党大野市議団	一括質問・答弁方式	<p><b>1 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う市民への支援策について</b></p> <p>① PCR検査体制はどのようになっているのか。市内での検査はできないのか。</p> <p>② 医療機関のマスクや医療用ガウン、フェイスシールド等の医療用資材は足りているのか。不足の場合、支給することを検討しないか。</p> <p>③ 感染症などが拡大した場合に医療従事者に、市として特別手当の支給を検討しないか。</p> <p>④ 介護施設・養護施設等を個室化するための施設改修に、市として支援を検討しないか。</p> <p>⑤ 介護・福祉従事者に、市として特別手当を支給することを検討しないか。</p> <p>⑥ 在宅要介護者・要支援者に、支援金を支給することを検討しないか。</p> <p>⑦ 上下水道料金の減免策を検討しないか。</p> <p>⑧ 一律10万円の特別定額給付金を申請されていない世帯の件数は。</p> <p>⑨ 申請されていない世帯の調査を行うべきではないか。</p> <p>⑩ 緊急事態宣言が解除になったが、企業や個人事業主等の支援は不十分。さらなる支援を検討しないか。</p> <p>⑪ 市の施設等の指定管理者に休業補償を支給することを検討しないか。</p> <p>⑫ 大学生・専門学生への支援金の支給を検討しないか。</p> <p>⑬ 小中学生一人に一台のタブレット端末を整備することになっているが、各家庭で使用できるように検討しないか。</p>

質問者	質問方式	質問概要
松田未来おのおの	一括質問・答弁方式	<p><b>1 議案第38号第六次大野市総合計画基本構想について</b></p> <p>議案第38号は、未来の大野市につながる最も重要な議案であり、不確実で厳しい時代を乗り切るための羅針盤でありたいと市民とわれわれ議会もその重要性をしっかりと認識している。私もこの計画を「まちづくりのための一丁目一番地」として捉えて、継続的に質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第五次大野市総合計画第2章「将来の見通し」の中で「ふれあい交流人口の見通し」が、この第六総合計画では外されているのはなぜか。</li> <li>○ 今回の第六次大野市総合計画の中で、将来の見通しを「人口」と「土地利用」にしたのはなぜか。</li> <li>○ この計画の理念や基本方針を、大野市民憲章と大野市教育理念としたのはなぜか。</li> <li>○ コロナ禍で、地球規模の様々な変化の中、この計画で触れられてないのはなぜか、またいつどのように反映させるのか。</li> <li>○ 第六次大野市総合計画は令和3年度から令和12年度の10年間とするとあるが、10年間とした理由について質問する。</li> </ul> <p><b>2 学校再編計画の見直しについて</b></p> <p>本年度末に学校再編計画（案）の策定のために、教育委員会が推し進めている現在の状況について質問をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 5月定例教育委員会で決定した「学校再編検討に向けた基本方針」はどのような内容か。</li> <li>2 コロナ禍の中、検討委員会の開催スケジュールはどうなるのか。</li> </ol>

質問者	質問方式	質問概要
<p>榮 日本共産党大野市議団</p>	<p>一括質問・答弁方式</p>	<p><b>1 学校再開について</b></p> <hr/> <p>① 学年の締めくくりと、新たな学年のスタート時期の3カ月もの休校は、子どもに計り知れない影響を与えているのではないかと。</p> <p>② 子どもの学習に、相当の遅れと格差をもたらしていないかと。</p> <p>③ 子どもたちは、かつてないような不安とストレスをため込んでいるのではないかと。</p> <p>④ こうした子どもを受け止める手厚い教育が必要で、かつてない学習の遅れと格差に対しては、子ども一人ひとりに丁寧に教えることが欠かせないのではないかと。また学習が遅れた子どもへの個別の手立ても必要でないかと。</p> <p>⑤ 子どもの本音を受け止め、抱えた不安やストレスに共感しながら心身のケアを進めていくには、手間と時間が必要である。休校の中で特別な困難を抱えた子どもには、より立ち入った心理的あるいは福祉的な面も含めた支援が求められ、子どもたちの心身のケアを行うことは、学びを進める上での前提でないかと思うがどうか。</p> <p>⑥ 子どもの実態から出発する柔軟な教育の必要性は、カリキュラムをこなし、学習内容を詰め込むやり方は、子どもたちに新たなストレスをもたらし、子どもたちの成長をゆがめかねないのではないかと。大野市の学力テストは中止をしてはどうか。</p>

質問者	質問方式	質問概要
林 新風会 ・ 公明	一括質問・答弁方式	<p><b>1 新型コロナウイルス感染症対策とこれからの行政経営について</b></p> <p>議案第38号「第六次大野市総合計画基本構想」は、総合計画審議会での議論、市民からの意見などを反映してまとめられた。10年後の大野市の将来像を「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」と定め、「こども」「健幸福祉」「地域経済」「くらし環境」「地域づくり」の五つの分野とそれを下支えする「行政経営」分野において、将来像実現のための基本目標を設定している。</p> <p>世界中、瞬く間に広がった新型コロナウイルス感染症については、非常事態の中、市対策本部で決定し、さまざまな対策が実施されているが、これまで当たり前だった社会構造に劇的な変化が起きている。元通りにはならないし、新型コロナウイルス感染症とうまく共生しながら、社会・経済活動を両立させていくため、「新しい生活様式」の実践、定着が求められている。</p> <p>「行政経営」分野における基本目標「結のまちを持続的に支える自治体経営」達成に向けて、新たな発想の下で挑戦していく必要性や職員の育成、市民に開かれた市政運営など、取り組むべき方向性が示されている。</p> <p>これまでの新型コロナウイルス感染症に対する市の対応には、さまざまな声があった。財政面への影響を心配する声も多く、不安に寄り添う行政運営が求められていることから、2点について質問する。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症とその対策における市長の考え方と財政面における影響を伺う。</p> <p>○ 将来像実現に向けて掲げた基本目標のうち「こども」「地域経済」「地域づくり」分野に対する市長の思いを伺う。</p>

一般質問事項一覧

6月9日（火）

質問者	質問方式	質問概要
ダニエル 無党派	一問一答方式	<p><b>1 市役所におけるテレワークと業務のペーパーレス化をどのように推進していくのか</b></p> <p>コロナウイルスがまん延し、テレワークの必要性が全国で叫ばれるようになった。しかしながら、わが国において、他の先進国と比べてもテレワークの普及率は非常に低いように思われる。従来型のはんこを必要とする業務形態をはじめとして、文明の利器に頼らず紙を中心とした仕事のやり方がテレワークを妨げていると多くの識者が指摘をしている。</p> <p>今後もコロナウイルスの第2波が来ないという保証はないし、職員が風邪やインフルエンザにかかり、肉体的には職務遂行は可能だが登庁が許されないケースも予想される。その際にテレワークの体制を市役所内で整えていると、出勤することなく業務が遂行できるのではないか。</p> <p>また行政機関というのは、紙が多い職場の代名詞のような場所である。データで書類を保存できる昨今、果たして書類を全て紙で保存し、紙で配布する必要があるのか疑問に思う。従来型の紙ベースの業務形態は、大量の紙を無駄にしているように思われる。市役所業務のタブレット化、オンライン化をさらに進め、紙の無駄を大幅に削減すべきではないだろうか。これは石山市長の推進するSDGs（持続可能な開発目標）の精神に合致するものと思われる。</p> <p>ちょうど2年前、石山市長が当選を果たした次の日の朝刊で「新しい風を吹かせる」と答えているインタビュー記事が掲載された。今こそ、市役所内にもオンライン化、デジタル化の新しい風を吹かせ、業務の効率化と無駄の削減を図るべき時だと考えるが、市長のお考えを伺いたい。</p> <p><b>2 コロナウイルスがまん延したことにより、まちなか循環バスよりも、オンデマンド型乗り合いタクシーの方が費用対効果が良いと証明されたのではないか</b></p> <p>コロナウイルスが猛威をふるった時期、学校は一時休校になったが、それでもまちなか循環バスは運行を続けていた。この公共交通サービスの主な利用者は、越前大野駅から通学する高校生という現状を鑑みると、今の循環バスの費用対効果は非常に悪いのではないか。</p> <p>しかも高校生は、天気の良い日には駅に止めてある自転車で通学し、天気の悪い日や足場の悪い日のみバスを利用する傾向がある。高校生が必要な日だけ安価なタクシーサービスを提供した方がいいのではないか。</p> <p>年間2,000万円程の予算をこの循環バスに使っているようだが、オンデマンド型の乗り合いタクシー制度を開始すれば、今よりもはるかに低い予算で市民にとって利便性の高いサービスが提供できるのではないか。</p> <p>夜間営業が中心の運転代行業者に依頼することによって、十分な車両を確保できると考えられる。県内の他の自治体でも採用されているシステムであり、実現不可能ではないと考えられるが、市長の見解を伺いたい。</p>

**3 公立小中学校の夏休みは今年13日ということだが、この期間夏休みの宿題は出さない方がいいのではないか**

コロナウイルスの影響で休校の期間が長くなり、必要な授業時間を確保すべく夏休みを短縮するとのことだが、各学校は夏休みの宿題を出す予定かどうか伺いたい。

13日しかない夏休みに宿題を出すことによって、児童・生徒の家族旅行や夏しかできない野外活動に支障を来す恐れがあると考えます。例えば、長期にわたる家族旅行に宿題を持参するという休暇の過ごし方は決して有益なものではない。大人が有給休暇中に仕事を家に持ち帰らないのと同じ考え方である。

また安倍総理も杉本福井県知事も、コロナ禍以後の観光業、宿泊業、外食産業の活性化を図りたいと考えている。市内の児童・生徒には、夏休みぐらい羽を伸ばして大いに楽しんでもらうべき時である。オンライン化やAIが登場し、これまで以上に創造性が必要とされるこの時代、ペーパー試験で良い点を取ることや貯金箱を作ることが真の学力ではない。学期中にできない体験を児童・生徒にしてもらうことが、学ぶ意欲、生きる力につながっていくのではないか。

国と県の方針に反してまで、大野市民のバカンスを無益な夏休みの宿題で台無しにしてはならない。これは大野市、福井県のみならず日本国全体の経済にかかわる問題でもあり、教育長は大幅に短縮された夏休みの宿題について、どのように考えているか伺いたい。

質問者	質問方式	質問概要
廣田清風会	一問一答方式	<p><b>1 道路の路肩や植え込み、河川や田んぼへのごみのポイ捨てや生活排水について</b></p> <hr/> <p>SDGsの考えを取り入れながら、10年後のまちの将来像を「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」として6分野の将来像実現のため基本目標を設定し、本定例会に第六次大野市総合計画基本構想の議案が提出されたが「くらし環境」分野で次の点について聞きたい</p> <p>1 近年、道路の路肩や植え込み、河川や田んぼへのごみのポイ捨てが増えていると感じているが、関係条例や対策について聞きたい。</p> <p>2 新型コロナウイルスに関し、生活排水による感染拡大や風評被害があるのか聞きたい。</p>
		<p><b>2 国勢調査における新型コロナウイルス対策について</b></p> <hr/> <p>大正9年（1920年）に開始して以来、今回の調査で100年を迎える国勢調査が、令和2年（2020年）10月1日を基準日として実施される予定だが、新型コロナウイルス対策を含め次の点について聞きたい。</p> <p>1 調査票の配送準備はどこで行うのか。</p> <p>2 当市における国勢調査員の人数および新型コロナウイルス対策は。</p> <p>3 国勢調査を活用し、市独自に新型コロナウイルスに関する影響や現状把握を行う予定はあるのか。</p>

質問者	質問方式	質問概要
伊東新風会・公明	一括質問・答弁方式	<p><b>1 大野市の地域包括ケアシステム構築について</b></p> <hr/> <p>団塊の世代が75歳以上となる、いわゆる2025年問題があり、今後も超高齢化社会の進行に伴い介護や医療のニーズが一層高まっている。住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを人生の最後まで続けていくことは、多くの人々の願いでもある。</p> <p>大野市においては今年度、高齢者福祉計画および第8期介護保険事業計画策定に当たり「地域包括ケアシステム」の段階的な構築に向け、今まで取り組んできた具体的な施策および現状と今後の取り組みについて質問する。</p> <p>○現在、当市における介護施設の入所者、在宅医療、在宅介護を受ける高齢者、それぞれの現状と課題を伺う。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療、介護現場においてどのような対策が取られたのか。また第2波、第3波に備え、今後、医療機関と介護事業所などが連携を図って一体的にサービスを提供していくために、どのような体制を整備していくのか当市の見解を伺う。</p>